

がんばってます！！新大

Vol. 5号

発行日：平成 19 年 8 月 22 日(水)

発行：新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』 URL：http://www.nuvc.info/ TEL：025-262-7530 Mail：gakuserv@adm.niigata-u.ac.jp

二十四～二十六日に調整チームの一員として活動された、新潟大学財務部財務企画課 吉澤初記副課長にお話を伺いました。

○ボランティアセンターではどんなことをされていたのですか？

刈羽村ボランティアセンターで調整チームの一員として活動しました。調整チームというのは、各チーム（避難所、ボランティアなど）の活動がスムーズに運営できるように調整するチームで、具体的には被災者からの要望やニーズの受付、ボランティアに来てくれる人とニーズの調整、持ち込みボランティア企画の調整など、多岐にわたる仕事をするチームです。

対する期待も大きいということを感じました。刈羽小学校の学童保育や、刈羽中学の教室開放と部活支援、地元の大学生からのサポートは、励みになるようですね。

○活動をしていて驚いたことはありませんか？

ボランティアセンターでの活動はマニュアルがなく、責任が伴う仕事です。電話対応では、自分の分かる範囲のことであれば自分で答えられます。自分が分からないことでも近くにいる人が分かることなら答えられます。でも、誰も分からないことを聞かれることもあります。そのときには、自ら動き、調べ、情報を整理し、

活動している人の顔は、イキイキとして良い顔

また、私は新潟大学サポートセンターとしての役割もあるため、災害対策会議にも出席をし、村の中の動きなどの情報を大学へ連絡していました。この活動を通して、学童保育に続き、中学の学習指導や部活支援などの活動も始まりました。

○今回の活動を通してどのようなことを感じられましたか？

新大の学生が評判がいいということ。他の県からの大学生よりも、新大生の方がより身近に感じられるようです。地元の大学の役割は重大だと思いました。それと同時に、新大生に

センターのチームに報告し相談する。そして、質問に答える。すごく大変な仕事だと思えます。

また、一日の終わりにボランティアセンター全体での会議があります。その中で出る反省に対する解決策を会議で出し合い、次の日には対応できているのです。私もそんな柔軟な対応が必要だと実感しました。これまでに、ボランティアをする側としては行ったことありましたが、運営する側というのは初めて。なかなか難しいです。貴重な経験をさせてもらったと思います。

○最後に学生に伝えたいことは？

新大生は評判がよく、期待されているので、1日でもかまわないから行ってみたい。現地には、「人の為に」という人がたくさんいました。いい人が多くて、まとまりがある。活動している人の顔もイキイキとしていい顔をしていると思いました。実際に現場に行かなければ分からないこともたくさんあるので、どんどん活動に取り組んでもらいたいと思います。



財務企画課 吉澤初記 副課長

現地では、調整チームとして活躍されました。

(聞き手) 新潟大学学生ボランティア本部

藤本隆太 (自然研・M2)

安本典生 (理・4)